皆さん、こんにちは。北海道知事の鈴木直道です。新聞やテレビでも話題になっているＩＲの北海道への誘致についてお話をさせていただきます。

まず結論から申し上げます。
私は、ＩＲの大きな可能性に着目し、その誘致に挑戦したいとの思いを固めると同時に、残念ではありますが、今回の国への申請は見送ることといたしました。

なぜ、こうした決断に至ったのか、その経緯と理由について、この場をお借りしてご説明をさせていただきます。

そもそもＩＲとは何か。ＩＲとは、国際会議場やホテル、ショッピングモール、テーマパークなどの観光施設とともに、これらの運営を収益面で支えるカジノ施設を民間事業者が一体的に整備をし、運営するプロジェクトの名称です。

日本では、まだ導入されておりませんが、既に、海外の多くの国では、国内の方から外国人、また、子供から大人まで、誰もが訪れ、楽しい時間を過ごすことのできる、個性豊かなＩＲが作られています。

日本でも、昨年７月に法律が制定され、国内に最大３ヶ所のＩＲを作ることが決まりました。

ＩＲに設置されるカジノを巡っては、ギャンブル依存症などの影響を心配する方々もおられますが、法律では、入場制限など世界でも最高水準とされる規制が設けられ、マイナスの影響をできる限り少なくする工夫もなされています。

４月に知事に就任し、７ヶ月余りとなりますが、この間、ＩＲの誘致に挑戦するか、しないのか、私自身、熟慮に熟慮を重ねてまいりました。

北海道は今、人口減少というあらがうことのできない大きな流れの中で、様々な困難に直面しています。経済社会の先細りが懸念される中、ＩＲは、民間事業者が整備・運営するこれまでにない大きなプロジェクトであり、外国人観光客など交流人口の増加や民間投資の拡大による道内経済の押し上げ、質の高い新たな雇用の創出、税収増による行政サービスの向上など、幅広い効果が期待でき、まさに私が公約のスローガンに掲げた「ピンチをチャンスに変える」大きな原動力になるものと考えています。

ではなぜ今回、このような大きな可能性をもつＩＲの誘致を見送ることにしたのか、その理由は、大きく３つが挙げられます。

まず１点目。
道が、ＩＲ誘致の優先候補地としている苫小牧市の植苗地区は、緑に囲まれた自然豊かな場所であり、北海道に相応しい自然共生型のＩＲが実現できる可能性を秘めています。

それが故に、保護すべき希少な動植物の生息場所ともなっており、ＩＲのような大規模開発を行う場合には、環境への影響を事前に調べ、そこで開発を行うことが可能かどうか予測を立て、評価をする「環境アセスメント」を行う必要があります。

候補地には、既に希少な猛禽類の生息が確認されており、その場合、春夏の繁殖期を２シーズンかけて、調査をしなければなりませんので、「環境アセス」の手続きには、３年程度の期間が必要となります。

こうした検討を行う中で、先月（１１月）の１９日に、国から区域認定申請の期間が示されました。その期間は２０２１年１月から７月。

申請期間ぎりぎりで申請するとしても、これから１年７ヶ月しか準備期間は残されておりません。従って、自然環境への配慮が不透明な状況で、整備計画を策定し、国に申請しなければならないことになります。これが一点目の理由です。

次に２点目。
さらに重大な問題は、仮に国から全国最大３ヶ所の認定を受けても、その後の環境アセスメントの状況や結果によっては、施設の着工ができなくなる恐れがあることです。

繰り返しになりますが、候補地は、希少な動植物が生息する森林地域ですので、造成地を利用する他府県の候補地とは違い、環境アセスの状況によっては、着工できないことも想定できるのです。これが２点目の理由です。

最後に３点目。
仮に着工ができなくなっても、挑戦することに意義があるのではないか、そういった指摘もあります。しかしながら、国に計画を申請するだけでも、その準備に

は、最低でも数億円という税金を投入しなければなりません。

道民の皆様の負担を強いることにもつながる重大なリスクを抱えたまま、ＩＲの誘致に挑戦をすることは、多くの皆様のご理解を到底得られない。これが、３点目。今回の誘致見送りに至った最大の理由です。

今回の決断は、私自身、苦渋の選択だったことをどうかご理解ください。

今回、誘致を見送ることといたしましたが、ＩＲは、北海道のピンチをチャンスに変える原動力になるという私の思いは変わりません。

来るべき時を見据えて、誘致への挑戦の準備をしっかりと行ってまいります。

「来るべき時」がいつかは、現時点では定かではありませんが、今回の認定から７年後には、区域数の再検討が必ず行われます。

私は、今回の判断に至る経緯を糧として、あらゆる可能性を視野に入れ、北海道にふさわしいＩＲのコンセプトづくり、候補地の検証作業、道民の皆様への積極的な情報発信など、必要な取組を進めてまいります。

来年早々には、道内７空港の一括民間委託がスタートをし、４月には、白老町で民族共生象徴空間ウポポイが開業します。

その後も、日本ハム・ファイターズのボールパーク、２０３０年には、札幌市とともに招致をめざしている冬季オリンピック・パラリンピック、そして新幹線の札幌延伸と、北海道を舞台とした、夢のある大きなプロジェクトが順次、進められています。

北海道らしい自然と調和したＩＲが、それらのプロジェクトとともに実現をし、未来に向けて躍動する北海道の姿を思い描きながら、誘致への挑戦を続けていく考えでありますので、道民の皆様、どうかご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

どうもありがとうございました。